

普及センター

堆肥をつかおう！ 堆肥をつくろう！



家庭からでる生ごみを利用した簡単な堆肥作り	
①まず、庭の日陰で水はけのよい場所に生ゴミ処理バケツ（コンポスト）を用意します。底がなく余分な水分が抜け、土中の微生物の働きを利用します。ベランダの場合はポリ容器（底のあるもの）を用意します。	②生ゴミはよく水を切ってから容器に入れます。このとき油かすや米ぬかなどと一緒に入れると発酵が早く進みます。さらに発酵促進剤などを利用すると効果的です。
③落ち葉や刈り草があれば一緒に入れ、容器の中ができるだけかわかすようにします。	④1週間に1度、表面が粉でかかる程度に石灰窒素をふりいれます。そうすることで、発酵促進と害虫発生防除効果が期待できます。
⑤堆積期間は長い程よく腐熟しますが、途中切り返して混ぜ合います。	⑥4～5ヶ月で使えるようになります。

野菜作りの基本は土作り。健康な野菜は、土壤微生物のバランスのとれた土から収穫できます。その土作りには堆肥の利用が効果的です。

堆肥の施用効果

堆肥の施用効果には、次の2つがあります。

○化学的効果

堆肥に含まれている肥料分が作物に直接利用されます。上手に作られた堆肥は、成分のバランスがよく、作物の要求する肥料分の多くを含んでいます。

○物理的効果

作物の成長のポイントは根です。その根が生長するには水分と新鮮な酸素が必要です。堆肥を施用すると、堆肥に含まれた有機物が土と混じり合い、土の粒子との間に水分と酸素をよく

含む团粒構造を作り、根が喜ぶふかふかの土になるのです。

堆肥の種類

堆肥にはいろいろな種類があり、材料の違いによって、牛ふん堆肥、豚ふん堆肥、鶏ふん堆肥、わら堆肥、落ち葉堆肥などに分かれます。それぞれ性質も異なります。特に家畜ふんからは近づくの堆肥を生産している畜産農家から、堆肥を譲り受けたり、自分で堆肥作りに挑戦してみてはいかがでしょうか。

※問い合わせは、普及センター松尾駐在(86-4121-52)へ。
(農畜産科 伊藤)

風鈴の高鳴り止まず夜半の風
藤代 ゆう
みちのくのみやげ風鈴聞きにけり
玉虫 たけし

今もなほ被爆の傷を負ふ余生
藤代 ゆう
登校をする小学生らの黄の帽子上
下に踊り遠くなりゆく
中越 美代子

葉草の種を守らむとひたすらに人
は届みて草をひきぬつ
瀧谷 静子

佐瀬 初音

いつよりか「よいしょ」と声をか
けて立つ吾を真似するわれの幼ら
は輝く
佐瀬 初音

満月が空の真中に据はりて光音
なく四方に輝く
佐瀬 初音

総野より出土せしナウマン象の牙
見つつひととき遠世に遊ぶ
永藤 滋

選者 斎藤つね子

裏山のカナカナ蝉は朝あけをひた
ぶる鳴きて吾を起こせり
掛川 友代

右膝の病めば丈も詰るのかズボン
右のみかかとに余る
吉岡 信子

堆肥の入手方法

現在では、量販店の園芸コーナーに様々な種類の堆肥が手軽に利用できる状態になって販売されています。これを利用するのが、一番簡単な方法です。

しかし、畑の面積が広いと堆肥の費用もかかります。そんな方は近くの堆肥を生産している畜産農家から、堆肥を譲り受けたり、自分で堆肥作りに挑戦してみてはいかがでしょうか。

端居して風鈴の音を一人占め
若梅 あやめ

風鈴や母となる日を待ち
小林 順子

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

進みては又のけぞりぬ盆踊り
戸村 静華

軒下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

進みては又のけぞりぬ盆踊り
戸村 静華

軒下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り
福田 晴一

暮の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

病む窓の視界は狭し夏の川
土屋 栗水

樺の木の水吸ふ音が聞こゆとふ息
を鎮めて幹に耳寄す
宇井 ちい

轟下の風鈴時刻を刻み居り<br